



NEWS

2013 No.269

8 月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

スキャンツール等補助金交付の執行団体を公募

スキャンツール未導入の整備工場は 補助金を活用し、自動車技術高度化と 継続検査項目見直しを見据えた対応を

国土交通省および資源エネルギー庁は6月4日、2013年度「省エネ型ロジスティクス等推進事業費補助金（省エネ型陸上輸送実証事業）」を事業者に交付する執行団体の公募を開始しました。

同補助事業では、省エネ型トラック運送と、省エネ型タクシー運行の実証事業に加え、自動車整備事業者のスキャンツールの導入に対しても補助金が交付されることとなりました。スキャンツールの購入に関し、補助金の交付が実施されるかどうかについては、一部メディアで報道されたこともあり、業界内で大きな注目を集めていました。

予算の総額は10億5000万円で、業界関係者によれば、このうちスキャンツールに対しては、2億円が配分される見込みです。

執行団体の公募は6月中に一度実施されましたが、その際に応募がなかったため、国土交通省と資源エネルギー庁は7月に再度公募を行いました。順調に進めば執行団体は8月中旬頃に決定され、その後開催される「省エ

ネ型陸上輸送の評価制度構築に係る検討会（仮称）」で補助金交付の条件などが固められる見込みです。

新車販売台数の5台に1台を占めるまで成長したハイブリッド車の複雑なシステムを診断・整備するのはもちろん、衝突事故を回避・軽減するためのシステムが軽自動車にまで普及し始めた今、フロントバンパー脱着・交換などのごく簡単な作業にさえ、スキャンツールが必要不可欠になりつつあります。そのため、アフターマーケットの現場においては、以前にも増して電子故障診断ができるスキャンツールの必要性が高まっています。

全国のディーラーがほぼ全店メーカー純正スキャンツールを保有しているのに対して、7万3000余の自動車整備工場における保有

状況は30%以下とみられています。この原因のひとつに、メーカー純正あるいはこれに匹敵する機能を備えたスキャンツールが高価格であること、整備工場の日常業務に照らし合わせた時には、オーバースペックに思えるほどに機能が充実していることが挙げられます。

そこで、ベーシックな仕様では低価格、ソフトの追加で高機能化が図れるスキャンツールもあり、各自動車整備工場の必要に応じて使用することができます。

日本自動車整備振興会連合会（日整連）でも、「スキャンツール活用事業場認定制度」を2013年4月からスタートし、全国で150事業場が「コンピュータ・システム診断認定店」として、展開しています。

「スキャンツール活用事業場認定制度」とは、スキャンツールを活用して整備作業、診断作業の効率化を図ると共に、自動車の電子制御における機能について診断できる整備事業場を認定することにより、ユーザーを獲得することを目的としており、スキャンツールの普及の一端を担っています。

今回の補助金交付でスキャンツールの普及が一段と進めば、検討が進められている一級整備士への優位性付与や車検へのOBD検査追加、それに合わせた指定工場の要件見直しなども具体化されていくでしょう。

今回の補助金交付が、現時点でスキャンツールを未導入の自動車整備事業者にとっては、スキャンツールの導入を検討する絶好のチャンスではないでしょうか。



第33回オートサービスショー 2013の傾向分析 最新型スキャンツールが自動車整備の未来を示唆

第33回オートサービスショー 2013（主催：日本自動車機械工具協会）が7月5～7日の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトで開催されました。

出展者数は91社と前回から若干減少したものの、出展スペースは前回（686小間）より大幅に拡大しました。3日間の総来場者数は前回は上回る33,167人となり盛況さも感じられ、自動車アフターマーケット業界の、将来の兆しを感じさせる3日間になりました。

その中で、多くの来場者が注目を集めると共に、出展する各関連メーカー・商社が積極的にアピールしていたのは、2013年度「省エネ型ロジスティクス等推進事業費補助金（省エネ型陸上輸送実証事業）」も発表され、今後さらに需要が拡大すると見込まれているスキャンツールです。

新製品あるいは参考出品として展示されていた最新モデルの傾向としては、Wi-FiやBluetoothといった無線通信機能の搭載が

特徴的に挙げられます。

Wi-Fiなどを搭載した機種では、スキャンツールとタブレット端末、パソコン、スマートフォンとを無線で接続する仕様となっています。例えばカーオーナーがいる待合スペースなどの車両から離れた場所からでも、スキャンツールを遠隔操作することが可能です。また、診断結果を帳票印刷したり、内蔵カメラで撮影した写真も交えて一元的な画面で説明すれば、ユーザーに分かり易く追加整備を提案することができます。

さらに、デンソーの「DST-クラウド」や日本ベンチャーの「クラウド活用診断システム」では、クラウド（外部サーバー）連携型のサービスが紹介されていました。これらは、故障コードをクラウド内にある最新のデータと照会し、不具合の内容を確認しつつ、ユーザーから提供・蓄積された過去の類似事例を呼び出すことで、経験の浅い整備士でも不具合の原因と解決策を素早く特定できるようになっています。

Wi-Fiやクラウドによる可能性は、カーオーナーへの提案力強化や作業スピード向上だけではありません。Wi-Fiを使いスキャンツールを車検機器の統合制御システムと連携させることで、今後の継続検査項目への追加が検討されているOBD検査にも対応を可能としています。

またクラウドでは、ユーザーごとにアクセス権を設定することで、優位性の付与が検討されている一級整備士に限り、難易度の高いアクティブテストを許可する展開も、期待されるものです。

スキャンツールは、市場ニーズの変化や自動車技術の進化、法制度改正など、そうした変化を先取りして開発されており、今後の自動車整備の未来を示唆する存在になりつつあります。先進的な診断整備をいち早く取り入れる必要性からも、スキャンツールの進歩から今後も目が離せそうにありません。



Wi-Fiを搭載しパソコンなどでの遠隔操作を可能にしたアルティアの「SSS-01」



安全自動車は車検システムとスキャンツールを連携させた次世代高度 OBD 検査を実演



新人整備士でも素早い故障診断と整備を可能にするデンソーの「DST-クラウド」



日本ベンチャーの「クラウド活用診断システム」は故障コードの内容と点検箇所を表示

日本のリサイクル業界の現状など詳細に解説 中国の解体業界から高い関心を集める

NGPグループ多田幸四郎相談役が中国再生資源回収利用協会の招聘により講演

6月28日、中国再生資源回収利用協会（中国リサイクル協会：会員数約1万社）は、中国湖南省長沙で定例理事会を開催しました。翌29日、NGPグループで相談役を務める多田自動車商会（兵庫県神戸市）の多田幸四郎会長による講演会には、会員500名以上が詰めかけ、日本の解体業界の現状、NGP協同組合における中古部品流通の仕組み、今後の中国の解体業界が進む方向性について、約30分の講演が行われました。

聴講者からは「日本の解体業者をぜひ見学に行きたい」との声も多く挙がり、日本のリ

サイクル業界に対する関心の高さが伺えます。また、講演後は質疑応答もあり、大変有意義な講演会となり、満場の聴講者から盛大な拍手を受けました。

今回の訪中でNGP多田相談役は、中国物資再生協会の劉堅民会長、中国リサイクル協会の何方明副会長とも会談し、両者にとって大変有意義な時間を共有できました。

なお今後、多田自動車商会は、中国大連に事務所を開設し、最新の設備を導入した解体モデル工場を建設する計画を検討しています。



中国湖南省長沙で講演する多田相談役

第4回青年部会開催

マニュアル作成、環境貢献PR、 そして接客コンテスト計画が着実に進行中

次世代のリーダー育成を目的として今年1月に発足した青年部会の第4回会合が、東京都港区のNGP本部で開催されました。

今回は青年部会メンバー15人と組織指導委員会の佃正人委員長が出席し、「チーム3732（みなさんに）」、「チーム チャレンジャー」、「チーム ボンBon」の3チームがそれぞれ取り組むテーマについて、進捗を報告するとともに、今後の活動計画について話し合いました。

次世代自動車戦略プロジェクトの一環として、ハイブリッド車に関する業務マニュアル作りを進めるチーム3732は、まだ決して多くはないハイブリッド車（HV）の事例を1台でも多く蓄積するため、事例記入用フォーマットを全組合員に配布し、より内容を充実させるべく協力を呼びかけて参ります。

環境貢献のPRIに取り組むチーム チャレンジャーは、年内の全員合格を目標としてeco検定試験に臨むと共に、12月12～14日に東京ビッグサイトで開催されるエコプロダクツ2013でのNGP協同組合ブースをサポート。また、世界遺産に登録された富士山周辺の清掃を来年5月頃に実現すべく、地元自治体との折衝を含めた準備を進めて参ります。

そして、チーム ボンBonが推進する接客コンテストの実施については、他の2チームもそれぞれコンテストの競技内容を考え、まとめたアイデアをチーム ボンBonに提案しました。その結果、初回のコンテストはフロントマンのみを対象に、整備工場のお客様からのご要望に対し、いかにNGP協同組合の理念に近い形でお応えするかを競う、といった方向性が固められました。これは8月に開

催される理事会で審議され、その後ブラッシュアップしながら、細部を煮詰めていく方針です。

新しい取り組みを着実に実現しつつある、青年部会の活動に今後もご期待下さい。



真剣な眼差しで議論する青年部会メンバー

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成25年6月： **6,587t** NGP 1月からの累計： **39,621t** (全12団体 1月からの累計 **69,798t**)



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

NGP 平成25年6月： **25.0t** NGP 1月からの累計： **150.1t**

第7回フロントマンSTEP UP研修会開催 接客対応のレベルアップ 目標達成管理の徹底で 売り上げ増加にチャレンジ



ロールプレイング後はビデオを見ながら、参加者同士で意見を出し合った



一つでも多くの知識を明日の業務に活かすため、皆真剣な表情

第7回フロントマンSTEP UP研修会が7月22、23日の2日間、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターで開催されました。全国の組合員から9名が参加し、顧客のリピート率アップにつながる接客対応や、売り上げの目標達成管理方法、自動車車体構造と钣金補修修理の基礎知識について学びました。

接客電話対応のロールプレイングでは、その様子をビデオで撮影して、自らの話し方な

どの対応を客観的に確認することで自らを省みる絶好の機会となりました。

参加した吉村エコパーツの武市典弘さんは「自分のフロント業務を映像で見ることができて、普段自分ではまったく気づくことができない自分自身の良い点、悪い点をほかのメンバーから指摘してもらいました」と、自身の接客対応について知る良い機会になったとの感想を述べています。

実車を使用する自動車復元修理技法の講義

については、栃木パーツの武井淳史さんが「今まで知らなかった修理方法などの知識を得たことは、お客様に部品を販売する際の説明で、大変役に立つと思います」と、その効果を実感しています。

研修を終えてオートリサイクルナカシマ福岡の小村善幸さんは「フロントの使命である、お客様に信頼されること、企業として利益を確保することを心にたたきこみ、会社のトップを目指します」と、強い決意を示しました。

「廃車王くるマック」の ラジオCM応募で 目指せ賞金100万円!

NGP協同組合が、文化放送ラジオ主催のCMコンテストに初参加いたします



ラジオ CM コンテストのイメージイラスト



文化放送・野村邦丸さん(右)からのインタビューを受ける胡定晃・総務広報委員長(左)

NGP協同組合では、組合員店舗が運営を行っている「廃車王くるマック」の認知度向上のために文化放送ラジオ主催のCMコンテストイベントに初めて参加いたします。

文化放送ラジオCMコンテストは、参加する企業・団体が自社製品あるいは組織PRなどの課題文をリスナーに公表し、その課題文にマッチするラジオCMを一般リスナーが製作し応募するもので、文化放送ラジオの名物イベント企画です。

今年は15社が参加し、リスナーの全ての応募CMから最優秀作品に選ばれた方には賞金100万円、審査員賞には10万円などの賞金が贈られます。

コンテストの詳細は文化放送ラジオのホー

ムページで分かり易く説明していますが、誰でも応募ができますので、是非、チャレンジしてみてください。

廃車王くるマックでは、3つの優秀作品が選出され、最優秀作品CMは、1ヵ月間全

国ネットで放送することとなります。NGP NEWS読者の方も、賞金100万円を目指して応募してみても如何でしょうか!

なお、応募期間は2013年8月1日～10月31日です。

廃車王くるマック ラジオCM課題文

全国150店舗。NGP日本自動車リサイクル事業協同組合の「廃車王くるマック」は廃車を高品質のリサイクルパーツに生まれ変わらせます。「見積無料」「引取無料」「査定ゼロなし」「廃車手続」全てOK! 廃車でお困りの全国のカーユーザーに、「廃車王くるマック」を知ってもらうためのCMを。

<文化放送ラジオCMコンテストホームページ>

URL : <http://www.joqr.co.jp/2013copy/>

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>